

ナミビア月報

(2017年3月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 閣僚等給与改定
- ナミビア独立27周年記念式典
- ホセア・クタコ国際空港入札問題、落札は無効との最高裁判決
- 中央入札委員会の始動

【外交】

- 国民議会、ロンドンにおけるテロ事件に弔意を表明
- ロシア海軍戦艦、ウォルビスベイ寄港

【経済】

- ガソリン価格引き上げ
- 貿易・税関手続き窓口一本化へ
- ナミビア中央銀行総裁、中小企業銀行(SME Bank)幹部を不正融資疑惑で更迭
- シュレットヴァイン蔵相、2017/2018年度予算案を国会に提出
- 2016年の貿易収支は298億ナミビアドルの赤字
- 2月の消費者物価指数(CPI)は7.8%
- 南部アフリカ諸国に通じる幹線道路の開通
- Nampower、南ア Eskom 社との間で新たな電力供給協定に署名
- 2016年経済成長率(暫定値)は0.2%

【社会】

- 干ばつの次は洪水
- クリミア・コンゴ出血熱、第二の症例
- マラリアの流行
- 世界幸福度ランキング、ナミビアはアフリカで12位

1. 内政

●閣僚等給与改定

13日付各紙は、10日付官報で公表された、大統領以下政府主要閣僚等の新年度の給与額を報道。右によれば、平均6%増。給与額は次の通り(いずれもナミビアドル概算)。大統領(1.75百万ドル)、副大統領(1.52百万ドル)、首相(1.32百万ドル)、大臣(1.08百万ドル)、副大臣(0.78百万ドル)、国民議会議長および国民評議会議長(1.13百万ドル)、州知事(0.78

百万ドル)、初代大統領 (1.37 百万ドル)、前大統領 (1.15 百万ドル)。

●ナミビア独立27周年記念式典

21日、東カヴァンゴ州ルンドゥ市のスポーツ・スタジアムにおいて、ナミビア独立27周年記念式典が執り行われた。式典でガインゴブ大統領は演説を行い、貧困や格差などの課題は独立以来の負の遺産であるとし、産業化と雇用創出の加速化やビジネス環境の創出、脆弱層に対する救済プログラムの実施や基礎生活分野の向上、土地配分問題等に向けた、政府の取り組みや政策方向性をアピールしつつ、異なる民族や人種がさらに一丸となって、団結、愛国心、平和と安定、国作り、法治への献身を改めて深め、解放闘争で犠牲となった先人を忘れないよう呼びかけた。

●ホセア・クタコ国際空港入札問題、落札は無効との最高裁判決

28日、当国最高裁判所は、ホセア・クタコ国際空港入札問題に関し、ナミビア航空会社 (NAC; 国営企業) が中国企業 (Anhui Foreign Economic Construction Group) に落札したのは違法で無効との政府側上告 (ガインゴブ大統領、シュレットヴァイン蔵相、ナルセブ公共事業・運輸大臣の連名。) に対し、公共事業・運輸省次官に本件入札の最終的な承認権限はない等の理由で、政府側主張を全面的に認める判決を下した。さらに、同裁判所は、本件訴訟中に、公共事業・運輸省がNACに対し、本件中国企業との間でプロジェクト・コストの削減交渉を引き続き行うべきと指示したことについても無効と見なした。

本件入札問題は、2015年12月に、ガインゴブ大統領が手続きの瑕疵等を理由に入札手続きの停止を表明、その後中国企業がナミビア政府を相手に提訴し、高等裁判所では、政府の一方的入札キャンセルは違法として、政府側が敗訴となったが、政府側上告により、今次最高裁で逆転判決となった。

●中央入札委員会の始動

29日、シュレットヴァイン蔵相は国民議会において、新たに制定された公的調達法の下、透明性かつアカウンタビリティのある調達手続きを強化していくために、3月31日にこれまでの入札委員会 (Tender Board) を法的に解散し、4月1日より中央入札委員会 (Central Procurement Board) が公共調達を担当することになると報告した。同時に、ナミビア大学講師の経験を有する会計専門家を委員長他、9名の常勤スタッフ (任期5年) からなる中央入札委員会の陣容についても報告した。また翌30日、「シ」財相は、9名の中央入札委員会と共に記者会見に臨み、公に委員を紹介するとともに、メンバーに対して、疑わしい入札に関与したことが発覚した場合は、解雇もしくは懲戒プロセスにかけられることになると警告しつつ、公正な入札の確保を目指すことをアピールした。

2. 外交

●国民議会、ロンドンにおけるテロ事件に弔意を表明

24日、国民議会は、23日にロンドン国会議事堂付近で発生したテロ事件に弔意を表明、カチャビビ議長は「我々は他の世界各国と共にテロを非難し、かかる悪事の根絶にできる限りの方法で貢献する決意を強める」と述べた。

●ロシア海軍戦艦、ウォルビスベイ寄港

25日、シリアにおけるテロ対策オペレーション、アラビア海における多国間海軍演習「AMAN-2017」への参加を終えたロシア海軍の対潜重視型駆逐艦“Severomorsk”が、南アを經由し、ウォルビスベイ港に寄港した。ロシア戦艦がナミビアに寄港するのは初めて。戦艦の上級司令官はインタビューに応え、「我々のナミビア寄港は、ナミビア・ロシアの良好な二国間関係を再確認し、今後、貿易を含むさらなる二国間交流の機会を切り開くものである、また、ナミビア海軍関係者と今後の尾協力および相互訪問について協議する予定である」と述べた。

3. 経済

●ガソリン価格引き上げ

1日、鉱山・エネルギー省はガソリン価格を2ヶ月ぶりに引き上げを発表。無鉛ガソリンは32セント上がりN\$11.00/lに。ディーゼルは25セントあがり、N\$10.83/l (Diesel 500pm) 及びN\$10.88/l (Diesel 50pm)に。

●貿易・税関手続き窓口一本化へ

1日、ンガチゼコ産業化・貿易・中小企業大臣は、USAIDの協力を得て2018年3月をめどに、National Single Window for Trade (NSW) システムの第1フェーズを完成させる旨を発表した。NSWは貿易（輸出及び輸入）に必要な各種手続き（税関申告、輸出入許可等）を一括で行うことができ、手続きの簡素化や迅速化により輸出入業者にとって便利な制度。一方で政府側にとっても確実な税収増に繋がるものとして期待されている。第1フェーズに続き、第2フェーズ（19年3月）及び第3フェーズ（20年3月）と三段階で完成予定。同様のシステムは、日本、マレーシア、ケニア、ウガンダ、タンザニア等で既に導入されている。

●ナミビア中央銀行総裁、中小企業銀行(SME Bank)幹部を不正融資疑惑で更迭

2日、ナミビア中央銀行シーミ総裁は、SME銀行に181~196百万ナミビアドル相当の南ア向け不正融資の疑いがあるとして、SME銀行のMunvuma頭取他複数の経営陣の一部の職務を停止するとともに、SME銀行の業務をナミビア中央銀行が一時的に代行業務を行う旨公表した。今後不正内容が明らかにされていくこととなるが、SME銀行の業務自体は通常通り行われる。「シ」総裁は、SME銀行から融資を受けている企業の返済義務には何ら影響はない旨述べた。

●シュレットヴァイン蔵相、2017/2018年度予算案を国会に提出

8日、「シュ」蔵相は、歳出総額625億ナミビアドルの予算案を国会に提出。昨年10月に大幅改訂（当初予算から約45億ドルの歳出カット）した2016/2017年度（改訂）予算に比較すれば微増（1.7%）であるが、国際信用格付引き下げを避けるために引き続き緊縮予算を余儀な

くされている。2016年に大きく減速した経済（成長率1.6%と推定）は2017年には好転する（2.5%と推定）と期待しつつも、2017/2018年度末公的債務残高は716億ナミビアドル、GDP比約42%と高水準で、政府が目標とする35%を大きく上回る予定。

●2016年の貿易収支は298億ドルの赤字

15日に国家統計局（NSA）が公表した2016年の貿易統計（Annual Trade Statistics Bulletin）によれば、輸出総額709億ナミビアドル（2015年は586億ドル）、輸入総額1,007億ドル（2015年は982億ドル）、貿易赤字は2015年度比24.7%減の298億ドルで、過去6年間で最大の貿易赤字削減率を示した。

主要輸出先：①スズ（18.8%）、②南ア（16%）、③ボツワナ（14.1%）、④ザンビア（6.3%）

主要輸出品：①ダイヤモンド（33.2%）、②銅鉱石（17.5%）、③水産物（12.4%）、電気銅（9.7%）

主要輸入元：①南ア（58.7%）、②ボツワナ（6.6%）、③ザンビア（4.0%）、④中国（2.8%）

主要輸入品：①鉱油（12.2%）、②車両（9.1%）、③ボイラー（8.2%）、ダイヤモンド（7.8%）

●2月の消費者物価指数（CPI）は7.8%

15日に国家統計局（NSA）が公表した2月の消費者物価指数（CPI）は、前月の8.2%からは下げたが、前年同月の6.1%から上昇し、7.8%。

●南部アフリカ諸国に通じる幹線道路の開通

16日、ガインゴブ大統領出席の下、オマヘケ州ゴバビスとオジョゾンジュパ州フルートフォンティンを結ぶ幹線道路の内、オマヘケ州オトジネネとオジョゾンジュパ州オカマタパティ間の131kmの舗装道路の開通式が行われた。同幹線道路は、南部アフリカのモザンビーク、南ア、ボツワナ、アンゴラに通じる幹線道路の一部であり、2013年12月に工事が開始され、5億7,500万ナミビアドルの予算が投じられた。オカマタパティとフルートフォンティン間は本年7月に開通予定。

●Nampower、南アEskom社との間で新たな電力供給協定に署名

23日、レソトのマセルで開催された第42回南部アフリカ地域電力プール会合（SAPP）の機会に、国営電力公社Nampowerは、南アEskom社との間で、今後5年間にわたり200MWの電力供給を受ける新たな協定に署名を行った。同協定は、今月末に期限切れとなるEskomからの電力供給協定に替わる新たな長期契約であり、ナミビアに対する電力供給のみならず、ナミビアにおける発電能力の強化支援や代替エネルギー分野でのEskom側の協力促進等にも言及されている。

●2016年経済成長率（暫定値）は0.2%

30日、ナミビア国家統計局（NSA）が公表した2016年次統計暫定版（Preliminary Annual National Accounts 2016）によれば、2016年の経済成長率は0.2%（2015年は6.1%）であり、

2009年の世界経済危機の際の成長率0.3%を下回り、過去6年で最低となった。低成長は、建設部門と電気・水部門の低成長から第二次産業部門が10.4%縮小したことで、第三次産業部門の低成長が主要因。

4. 社会

●干ばつの次は洪水

2月以降、ナミビア各地で降雨があり、約3年間続いた干ばつに終止符が打たれつつある。ただし、アンゴラ南部での豪雨が洪水となってナミビア北部各州に水が押し寄せる事態が生じつつあり、9日、農業・水・森林省、首相府災害危機管理局及びナミビア気象局は共同プレスリリースを発売し、更なる洪水拡大に備え安全対策を講じるよう住民に呼びかけた。右によれば、2017年の洪水は、過去最悪とされる2011年の洪水に匹敵し、今後アンゴラで更なる降雨が続けば被害は2011年時を超える可能性がある。

●クリミア・コンゴ出血熱、第二の症例

10日、保健・社会サービス省報道官は、オマヘケ州の19才男性がクリミア・コンゴ出血熱を発症したことを発表した。男性は3月1日にダニに刺され、同月5日にクリミア・コンゴ熱のような症状を発症したため、ウイントフック中央病院に搬送された。検査の結果陽性と診断され、現在ゴバビス病院で隔離治療を受けている。

●マラリアの流行

27日、ハウフィク保健・社会サービス大臣は記者会見を行い、本年1月以降18名がマラリアで死亡、約1万2千人が陽性と診断されたと述べた。「ハ」大臣は、2012年の発症例は3,163件、死亡例4件、2016年に発症例24,682件、死亡例87件があったと述べつつ、死亡例の多くはマラリアの発見が遅れによるものであり、また、若年層や高齢者など脆弱層のリスクが高いと警告した。

●世界幸福度ランキング、ナミビアはアフリカで12位

20日、国連指定の国際幸福デーに発表された「2017年世界幸福度報告」によると、ナミビアは、アフリカ54ヶ国中12位（2016年から4ランク後退）、調査対象国155ヶ国中111位（同2ランク後退）であった。

(了)